

ろうさい ニュース

令和5年

7月号

第467号

当院に患者さんをご紹介くださっている先生方には、感謝申し上げます。

地域の皆様からの信頼に応え続けるために「アットホームなハイクラスの病院」を理念に取り組んでいます。



診療科の紹介 形成外科

形成外科部長 福原 定子

CLEFT CRAFT つれづれ

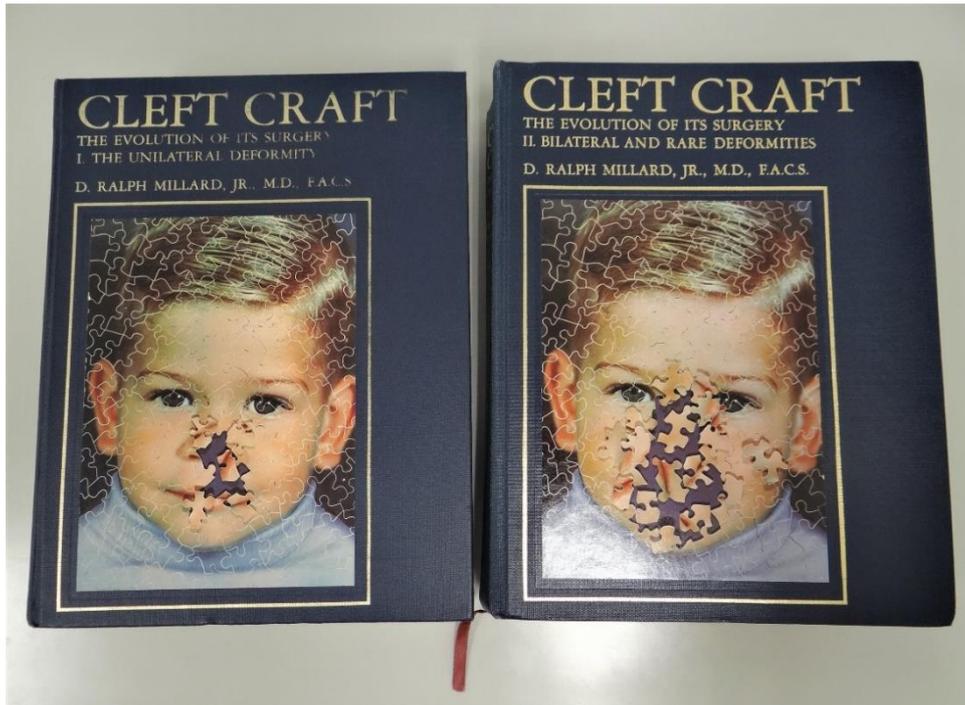
鈴木茂彦前院長先生が、2023年3月で定年退職を迎えられました。鈴木先生は当院の院長に着任される前は京都大学医学部形成外科学講座の教授を務められた方であり、唇顎口蓋裂、癬痕ケロイド、人工真皮の開発、など幅広い専門分野をお持ちの方でした。

その鈴木先生が退職される前に、蔵書の整理だ、もう捨てるから、と、私に数冊の非常に年季の入った洋書を下さりました。それらの本は、鈴木先生の形成外科の診療において大変役に立つものであったらしく、中でも百科事典のような分厚さで、

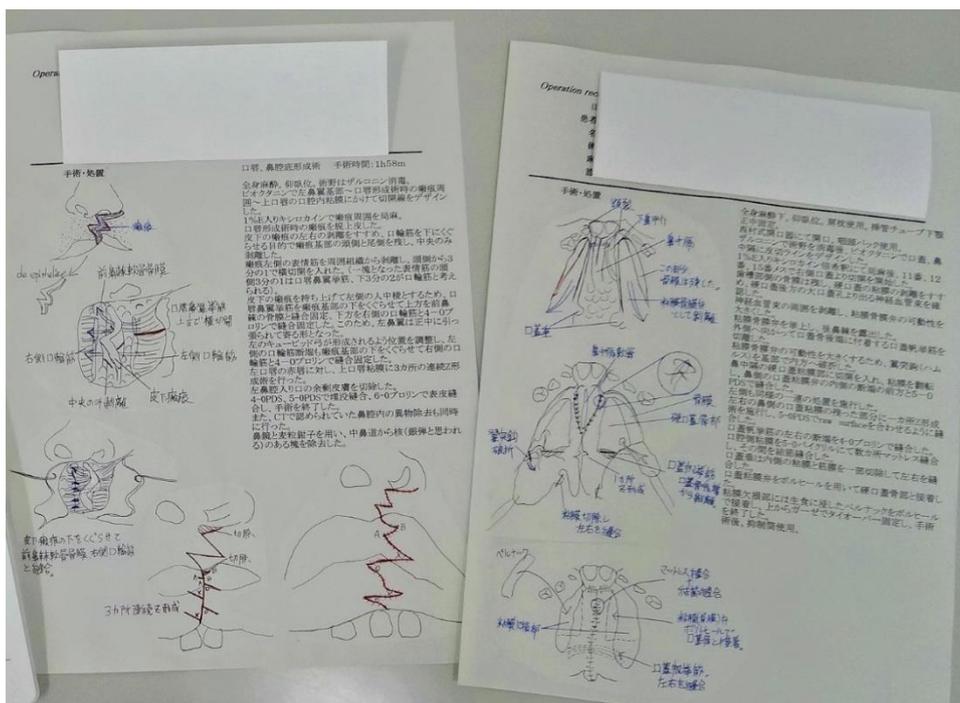
「CLEFT CRAFT」という本(図1)が貴重なものだということでした。「これは、あの、ミラードが書いた本で、もう、今では絶版になってしまって手に入りにくい。アマゾンで古本が1冊だけでも3万円以上の値がついている。」と、アマゾンの検索結果まで一緒に見せて下さりました。ミラード(David Ralph Millard: 1919—2011)とは、唇顎口蓋裂手術において有名なアメリカの形成外科医です。ミラード+小三角弁法、の術式で鈴木先生が唇裂の初回手術を行われているのを私は17年前に京大病院形成外科で研修していた時に拝見させていただいたことがあります。研修医2年目の選択期間中に、夏休みで子供の手術が増える時期(8月、9月)をねらって形成外科で研修させていただきましたが、久しぶりに当時の



自分が書いたオペレコ（手術記録）を見直すと、6例の唇裂、顎裂、口蓋裂の症例を経験させていただいていました（図2）。6人の患者さんのうちの1人は、もともと当院から京大病院形成外科に紹介された方であったため、この近辺にお住まいであり、当院に勤務してから数年後に偶然にその方の家族にお会いする機会がありました。向こうから声をかけてこられた時には、ただの研修医であったこちらのことをよくおぼえてらっしゃるな、と思いましたが、小児の形成外科患者の診療は、患児の成長を見守るような、長いお付き合いになるものであり、家族は執刀医の先生のことはもちろん、たまたまその時いた、ただの研修医のことまで忘れることはないのでしょう。



(図1)



(図2)

鈴木先生は定年退職された後も、週1回、木曜日に非常勤医師として当院で外来診療に携わっておられます。遠方からはるばる、鈴木先生を頼って患者さんが来られます。

唇裂、顎裂、口蓋裂の患者さんも来られますが、これらの手術は大抵の場合、1回では終わりません。乳児～小児～成人に至る過程で、成長を考慮し、適切な時期に適切な部位の手術を行うのが望ましいからです。また、成長に伴って再び変形が生じてくる場合があるので二次修正を要することもあるからです。二次修正は、本人がどこまで整容的改善をめざすか、にもよるのですが、他人から見てそれほど目立たない変形でも、本人や家族にとっては大きなコンプレックスとなっていることがあります。形成外科は、機能の異常のみならず形の異常を治すことによって、患者さんの生活の質“Quality of Life”の向上に貢献することに重きを置いています。当科では、他院で手術を受けられた後の患者さんからの相談でも、それが当院での手術で改善できることであれば治療を行っています。

新しいCT装置（320列CT装置）を導入しました。

当院では2023年5月、320列CT装置「Aquilion ONE」（キヤノンメディカルシステムズ社製）を導入しました。

320列CT装置の特徴

- 0.5mmの検出器を320列配置することにより1回転で16cm幅の範囲を撮影可能です。
- 画像処理速度が速くなり、撮影後の待ち時間が短縮されます。
- 被ばく線量が低減されました。
- 画質が向上しました。



第56回浜松EAST医療連携セミナーを開催いたしました。

- 日 時 2023年6月21日（水）19:00～
- 特別講演 「日本の臓器移植の現況」
演者：浜松ろうさい病院 病院長 江川 裕人

集合視聴及びWeb視聴のハイブリッド形式で開催いたしました。

多くの方々にご参加いただき、ありがとうございました。



